



大崎市立古川北小学校
学校だより

よつば

令和7年10月15日 第8号

教育目標

やさしく かしこく しなやかに生きる子どもの育成

【命を大事にすることを基本に】

- ◎思いやりのある子ども（人やものを大切にする力）
- よく考える子ども（自分の考えをもち、表現する力）
- ねばり強い子ども（チャレンジし続ける力）



校木 ケヤキ

大輪の花を咲かせるために ～ 2学期がスタートしました ～

校長 岩谷 敏之

栗駒山も色づき始め、「神の絨毯（じゅうたん）」も色鮮やかになったようすをニュースでも見掛けるようになりました。自然界の草木や動物も、少しずつ冬支度に入ってきたようです。

本日より、2学期がスタートしました。3月までのおよそ100日間の2学期です。

秋休み前には、担任から「通知表（けやき）」を受け取り、自分の良さや気を付けることを確認したと思います。頑張ったことは継続し、もう少しだったことは2学期の目標としてほしいと願っています。

さて、この秋休みに栗駒山に登ってきました。連休は天気が崩れるということだったので、連休初日の早朝から登山をすることにしました。

シャトルバスに乗車する前、係の方からの注意事項を伝えられたのですが、その中に、「昨日は報告がありませんでしたが、2、3日前には、連日登山道での熊の出没情報が寄せられています。ガサガサと音がするのでそちらを見たところ、2～3m先に熊がいたとのことでした。幸い熊は立ち去りましたが、目撃した際は御連絡ください。」というアナウンスでした。



最近、熊に関するニュースをよく目にするようになったので、「目撃した際は…」と言われても…。やや心配に思いましたが、この日は大勢の登山客がいたので安心もしていました。

シャトルバスに揺られて登山口に着き、山の頂を眺めると、それは見事な赤や黄色の紅葉が見られました。天気も心配でしたので、早速登り始めると、登山道の両側に、モミジやドウタンツツジなど、落葉樹の紅葉が迎えてくれました。

中腹まで足を進め、休憩をしながら麓の方に目を向けると、そこには見事な「神の絨毯」が広がっており、実に鮮やかで、まさに「心の洗濯」となりました。

さて、今回の登山で、私は二つのことを感じ、考えました。

一つ目は、謙虚に接するということです。前述で熊の話をしましたでしたが、この山の中での悪者は熊なのかということです。それは、我々人間の主観であり、彼らの生活圏に入り込んでいるのはこちらの方です。「お邪魔しています。」「ここにいますから来ないでね」くらいの謙虚な気持ちが大切ではと感じました。とかく人は、自分を中心に考えます。もちろん当たり前のことです。大事なこと。ただ、そこに相手のことを思いやる気持ちや言葉があれば、きっと上手に折り合いを付けながら過ごせるのではないかと思います。

二つ目は、どうして紅葉するのかということです。以前読んだ本の中に、こんなことが書かれていました。「落葉樹には、どの木の葉にも緑や黄色の粒があるが、春から夏に掛けては緑の粒が元気に働いて養分をたくさん作るため、黄色い粒はあまり見られない。だから葉が緑に見える。しかし、秋になると寒くなったり、日照時間が短くなったりして緑の粒が少なくなる。そして、黄色い粒がたくさん見られるようになり、葉が黄色くなる。黄色い葉は落葉するが、その葉にも、まだ栄養が残っていることがある。その際、葉が落ちる前に養分を木に戻そうとして赤い粒を作る。そうすると、葉にあった養分が枝や幹に戻されて蓄えられる」ということでした。つまり、紅葉（秋）は、冬を越えて春を迎えるための準備であり、これは、私たちにも通じることだと思えました。

いよいよ2学期のスタートです。「実りの秋」は、子どもたちの「卒業」や「修了」を迎えるための準備です。3月には大輪の花が咲かせられるように、有意義な2学期を過ごしてほしいと思います。